

2020年度
日本商工会議所

第157回

簿記検定試験

2級

【解答・解説】

この解答例は、当社で作成したものです。
解答中に記載してある配点は、当社で考えた予想配点です。

LEC東京リーガルマインド

著作権者 株式会社東京リーガルマインド
(C)2021 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan
無断複製・無断転載等を禁じます。
有効期限 2021年2月28日/2021年6月12日



0 000212 211492

BL21149

第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	現 金 有 価 証 券 売 却 損	973,080 10,000	売 買 目 的 有 価 証 券 有 価 証 券 利 息	980,000 3,080
2	支 払 手 形 支 払 利 息	2,000,000 80,000	支 払 手 形	2,080,000
3	買 掛 金	1,200,000	当 座 預 金 仕 入 割 引	1,188,000 12,000
4	建 物 修 繕 引 当 金 修 繕 費	600,000 700,000 200,000	当 座 預 金	1,500,000
5	そ の 他 有 価 証 券	1,000,000	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金 繰 延 税 金 負 債	700,000 300,000

1～5は仕訳1組につき4点 合計20点

第2問 (20点)

1.

固定資産台帳

2019年3月31日現在

取得年月日	種類	耐用年数	期首(期中取得)取得原価	期首減価償却累計額	差引期首(期中取得)帳簿価額	当期減価償却費
リース資産						
備品						
17. 4. 1	備品A	5年	6,600,000	1,320,000	(5,280,000)	(☆ 1,320,000)
14. 10. 1	備品B	5年	6,000,000	4,200,000	(1,800,000)	(1,200,000)
15. 4. 1	備品C	6年	7,344,000	3,672,000	(3,672,000)	(1,224,000)
機械装置						
16. 4. 1	機械D	8年	(13,440,000)	(3,360,000)	(10,080,000)	(☆ 1,680,000)
. .	(機械F)	(8年)	(27,840,000)	(0)	(27,840,000)	(1,740,000)

2.

リース資産

年月日	摘要	借方	年月日	摘要	借方
18 4 1	前期繰越	64,104,000	18 10 1	諸口	☆ 30,720,000
18 10 1	リース債務	☆ 27,840,000	19 3 31	次期繰越	61,224,000
		91,944,000			91,944,000

リース資産減価償却累計額

年月日	摘要	借方	年月日	摘要	借方
18 10 1	諸口	26,100,000	18 4 1	前期繰越	36,732,000
19 3 31	次期繰越	19,716,000	18 9 30	減価償却費	☆ 4,632,000
			19 3 31	減価償却費	4,452,000
		45,816,000			45,816,000

リース債務

年月日	摘要	借方	年月日	摘要	借方
18 9 30	普通預金	4,632,000	18 4 1	前期繰越	☆ 27,372,000
18 10 1	普通預金	4,620,000	18 10 1	リース資産	27,840,000
19 3 31	普通預金	☆ 4,452,000			
19 3 31	次期繰越	41,508,000			
		55,212,000			55,212,000

3. 当期の支払利息 ￥ ☆ 1,092,000

当期の支払リース料 ￥ ☆ 10,860,000

当期のリース資産除却損 ￥ ☆ 4,620,000

☆につき2点 合計20点

第157回 解答 —商業簿記—

第3問 (20点)

損 益 計 算 書

自 20X8 年 4 月 1 日 至 20X9 年 3 月 31 日

(単位：千円)

I	売 上 高	(4,090,000)
II	売 上 原 価	(☆	2,836,700)
	売 上 総 利 益	(1,253,300)
III	販 売 費 及 び 一 般 管 理 費			
1	販 売 費	(679,500)
2	減 価 償 却 費	(☆	24,000)
3	退 職 給 付 費 用	(☆	180,000)
4	貸 倒 引 当 金 繰 入	(☆	6,700)
	営 業 利 益	(363,100)
IV	営 業 外 収 益			
1	受 取 利 息 ・ 配 当 金		1,300	
2	有 価 証 券 利 息	(☆	160)
3	製 品 保 証 引 当 金 戻 入	(☆	1,700)
V	営 業 外 費 用			
1	支 払 利 息		16,400	
	当 期 純 利 益	(☆	349,860)

貸借対照表に表示される項目

(単位：千円)

① 仕 掛 品	☆	80,000
② 投資有価証券	☆	9,840
③ 買 掛 金	☆	1,050,000

☆につき2点 合計20点

第 4 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	材 料	2,160,000	買 掛 金 材 料 副 費	2,000,000 160,000
(2)	材 料 副 費 差 異	23,000	材 料 副 費	23,000
(3)	仕 掛 品 製 造 間 接 費	4,200,000 910,000	賃 金 ・ 給 料	5,110,000
(4)	仕 掛 品	2,520,000	製 造 間 接 費	2,520,000
(5)	予 算 差 異 操 業 度 差 異	80,000 50,000	製 造 間 接 費	130,000

仕訳 1 組につき各 4 点 合計 20 点

第 5 問 (20 点)

材 料		仕 掛 品	
月 初 有 高	841,500	仕 掛 品	(11,280,000)
買 掛 金	12,348,000	消費価格差異	(☆ 249,500)
		消費数量差異	(☆ 288,000)
		月 末 有 高	(1,372,000)
	<u>13,189,500</u>		<u>(13,189,500)</u>

仕 掛 品		製 品	
材 料	(☆ 11,280,000)	製 品	(☆ 19,575,000)
加 工 費	(☆ 8,931,000)	月 末 有 高	(636,000)
	<u>(20,211,000)</u>		<u>(20,211,000)</u>

☆につき 4 点 合計 20 点

【2級総評】

全体としては、難しい問題でした。第1・3・4・5問は基本的な事項を理解していれば満点が可能な問題です。しかし、第3問では、工業簿記の内容が含まれていること、第4問では材料副費の予定配賦が出題されていること、第5問では差異分析において実際価格が割り切れないことなどから、きちんと理解していなければ、満点をとることはできないようになっていきます。第2問は、基本的事項の集まった問題ではあるものの、作業が煩雑になることと、作業量が多いことから、得点を伸ばすことが極めて難しい問題です。6点以上は確保したいところです。以上より、合格のためには、第1・3・4・5問で少なくとも64点以上を確保できなければ厳しいと思われます。

【解説】

第1問

仕訳に関する問題です。勘定科目の指定に注意しましょう。

1. 売買目的有価証券の売却

期中に取得した売買目的有価証券を売却する処理をします。端数利息の計算に注意してください。

<取得時>

(借) 売買目的有価証券	980,000	(貸) 現	金	981,240
有価証券利息	1,240			

$$\text{有価証券利息} : \text{¥}1,000,000 \times 0.73\% \times \frac{62 \text{日} (\times \text{年}4\text{月}1\text{日} \sim 6\text{月}1\text{日})}{365 \text{日}} = \text{¥}1,240$$

<売却時>

(借) 現	金	973,080	(貸) 売買目的有価証券	980,000
有価証券売却損		10,000	有価証券利息	3,080

$$\text{有価証券利息} : \text{¥}1,000,000 \times 0.73\% \times \frac{154 \text{日} (\times \text{年}4\text{月}1\text{日} \sim 9\text{月}1\text{日})}{365 \text{日}} = \text{¥}3,080$$

$$\text{有価証券売却損} : \text{¥}980,000 - \text{¥}970,000 = \text{¥}10,000$$

2. 手形の更改

手形の更改に伴って支払期日の延長に伴う利息は、支払利息に該当し、新たな手形に含めます。

3. 仕入割引

仕入割引は、支払期日より早く決済を行うことで一部の支払が免除がされるときに発生します。

4. 固定資産の資本的支出・収益的支出

固定資産の修繕工事のうち、改良のための支出と判断された部分は、資本的支出に該当し、建物勘定で処理します。一方、残額は収益的支出に該当し、修繕費勘定で処理しますが、その際、修繕引当金を充当します。

$$\text{建物} : \text{¥}1,500,000 \times 40\% = \text{¥}600,000$$

$$\text{修繕費} : \text{¥}1,500,000 - \text{¥}600,000 - \text{¥}700,000 = \text{¥}200,000$$

5. その他有価証券の評価

その他有価証券は、取得時よりも決算時の時価が上がっているため、時価評価とともに評価差額に税効果会計を適用します。

$$\text{その他有価証券} : (\text{¥}900 - \text{¥}800) \times 10,000 \text{株} = \text{¥}1,000,000$$

$$\text{繰延税金負債} : \text{¥}1,000,000 \times 30\% = \text{¥}300,000$$

$$\text{その他有価証券評価差額金} : \text{¥}1,000,000 - \text{¥}300,000 = \text{¥}700,000$$

第 2 問

リース取引に関する問題です。個々の取引はほとんどが基本的な内容ですが、リース物件が多く、作業が煩雑になるため、丁寧に処理していく必要があります。基本的には、リース物件ごとに処理を考えます。なお、処理によっては、合計額で処理すべきものについても、便宜上、リース物件ごとに示します。

I. ファイナンス・リース取引

(1) 備品 A

①2018年9月30日

(借) リース債務	660,000	(貸) 普通預金	720,000
支払利息	60,000		
(借) 減価償却費	660,000	(貸) リース資産減価償却累計額	660,000

$$\text{リース債務} : \text{¥}6,600,000 \div 5 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}660,000$$

$$\text{支払利息} : (\text{¥}7,200,000 - \text{¥}6,600,000) \div 5 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}60,000$$

$$\text{減価償却費} : \text{¥}6,600,000 \div 5 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}660,000$$

②2019年3月31日

(借) リース債務	660,000	(貸) 普通預金	720,000
支払利息	60,000		
(借) 減価償却費	660,000	(貸) リース資産減価償却累計額	660,000

(2) 備品 B

①2018年9月30日

(借) リース債務	600,000	(貸) 普通預金	648,000
支払利息	48,000		
(借) 減価償却費	600,000	(貸) リース資産減価償却累計額	600,000

$$\text{リース債務} : \text{¥}6,000,000 \div 5 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}600,000$$

$$\text{支払利息} : (\text{¥}6,480,000 - \text{¥}6,000,000) \div 5 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}48,000$$

$$\text{減価償却費} : \text{¥}6,000,000 \div 5 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}600,000$$

②2019年3月31日

(借) リース債務	600,000	(貸) 普通預金	648,000
支払利息	48,000		
(借) 減価償却費	600,000	(貸) リース資産減価償却累計額	600,000

(3) 備品 C

①2018年9月30日

(借) リース債務	612,000	(貸) 普通預金	660,000
支払利息	48,000		
(借) 減価償却費	612,000	(貸) リース資産減価償却累計額	612,000

第157回 解説 —商業簿記—

$$\text{リース債務} : \text{¥}7,344,000 \div 6 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}612,000$$

$$\text{支払利息} : (\text{¥}7,920,000 - \text{¥}7,344,000) \div 6 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}48,000$$

$$\text{減価償却費} : \text{¥}7,344,000 \div 6 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}612,000$$

②2019年3月31日

(借) リース債務	612,000	(貸) 普通預金	660,000
支払利息	48,000		
(借) 減価償却費	612,000	(貸) リース資産減価償却累計額	612,000

(4) 備品D

①2018年9月30日

(借) リース債務	1,260,000	(貸) 普通預金	1,440,000
支払利息	180,000		
(借) 減価償却費	1,260,000	(貸) リース資産減価償却累計額	1,260,000

$$\text{リース債務} : \text{¥}20,160,000 \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}1,260,000$$

$$\text{支払利息} : (\text{¥}23,040,000 - \text{¥}20,160,000) \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}180,000$$

$$\text{減価償却費} : \text{¥}20,160,000 \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}1,260,000$$

②2018年10月1日

(借) リース資産減価償却累計額	2,100,000	(貸) リース資産	6,720,000
リース資産除却損	4,620,000		
(借) リース債務	4,620,000	(貸) 普通預金	5,280,000
リース資産解約損	660,000		

$$\text{リース資産} : \text{¥}20,160,000 \div 3 \text{台} = \text{¥}6,720,000$$

$$\text{リース資産減価償却累計額} : \text{¥}1,260,000 \div 3 \text{台} \times 5 \text{回} (16.4.1 \sim 18.9.30) = \text{¥}2,100,000$$

$$\text{現金預金} : \text{¥}23,040,000 \div 3 \text{台} - \text{¥}1,440,000 \div 3 \text{台} \times 5 \text{回} (16.4.1 \sim 18.9.30) = \text{¥}5,280,000$$

$$\text{リース債務} : \text{¥}20,160,000 \div 3 \text{台} - \text{¥}1,260,000 \div 3 \text{台} \times 5 \text{回} (16.4.1 \sim 18.9.30) = \text{¥}4,620,000$$

③2019年3月31日

(借) リース債務	840,000	(貸) 普通預金	960,000
支払利息	120,000		
(借) 減価償却費	840,000	(貸) リース資産減価償却累計額	840,000

$$\text{リース債務} : \text{¥}20,160,000 \times \frac{2\text{台}}{3\text{台}} \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}840,000$$

$$\text{支払利息} : (\text{¥}23,040,000 - \text{¥}20,160,000) \times \frac{2\text{台}}{3\text{台}} \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}120,000$$

$$\text{減価償却費} : \text{¥}20,160,000 \times \frac{2\text{台}}{3\text{台}} \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}840,000$$

※[設問]資料1より「2019年3月31日に存在するものを固定資産台帳に記入」とあるので、2台分を記入することに注意が必要です。

(5) 備品 E

①2018 年 9 月 30 日

(借) リース債務	1,500,000	(貸) 普通預金	1,800,000
支払利息	300,000		
(借) 減価償却費	1,500,000	(貸) リース資産減価償却累計額	1,500,000

$$\text{リース債務} : \text{¥}24,000,000 \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}1,500,000$$

$$\text{支払利息} : (\text{¥}28,800,000 - \text{¥}24,000,000) \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}300,000$$

$$\text{減価償却費} : \text{¥}24,000,000 \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}1,500,000$$

②2018 年 10 月 1 日

(借) リース資産減価償却累計額	24,000,000	(貸) リース資産	24,000,000
------------------	------------	-----------	------------

(6) 備品 F

①2018 年 10 月 1 日

(借) リース資産	27,840,000	(貸) リース債務	27,840,000
-----------	------------	-----------	------------

②2019 年 3 月 31 日

(借) リース債務	1,740,000	(貸) 普通預金	1,920,000
支払利息	180,000		
(借) 減価償却費	1,740,000	(貸) リース資産減価償却累計額	1,740,000

$$\text{リース債務} : \text{¥}27,840,000 \times \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}1,740,000$$

$$\text{支払利息} : (\text{¥}30,720,000 - \text{¥}27,840,000) \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}180,000$$

$$\text{減価償却費} : \text{¥}27,840,000 \times \div 8 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}1,740,000$$

II. オペレーティング・リース取引

(1) 事務所

①2018 年 9 月 30 日

(借) 支払リース料	3,000,000	(貸) 普通預金	3,000,000
------------	-----------	----------	-----------

$$\text{¥}30,000,000 \div 5 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}3,000,000$$

②2019 年 3 月 31 日

(借) 支払リース料	3,000,000	(貸) 普通預金	3,000,000
------------	-----------	----------	-----------

(2) 車輛

①2018年9月30日

(借) 支払リース料	1,080,000	(貸) 普通預金	1,080,000
------------	-----------	----------	-----------

$\text{¥}4,320,000 \div 2 \text{年} \times \frac{6\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}1,080,000$

②2019年3月31日

(借) 支払リース料	1,080,000	(貸) 普通預金	1,080,000
------------	-----------	----------	-----------

(3) 事務所スペース

①2018年9月30日

(借) 支払リース料	900,000	(貸) 普通預金	900,000
------------	---------	----------	---------

$\text{¥}10,800,000 \div 3 \text{年} \times \frac{3\text{ヶ月}}{12\text{ヶ月}} = \text{¥}900,000$

②2018年12月31日

(借) 支払リース料	900,000	(貸) 普通預金	900,000
------------	---------	----------	---------

③2019年3月31日

(借) 支払リース料	900,000	(貸) 普通預金	900,000
------------	---------	----------	---------

第 3 問

受注生産・製品販売を行っている製造業の財務諸表を作成する問題です。減価償却費や退職給付引当金などを製造原価に含める分と当期の費用に含める分とに分ける必要があります。解答にあたっては、勘定連絡図を意識して解くことが重要です。

〔資料Ⅱ〕 3 月の取引・決算整理等に関する事項

1. 製造原価等の処理

① 材料の購入・消費

材料消費高のうち、直接材料費は仕掛品へ、間接材料費は製造間接費へ振替えます。

(借) 材	料	120,000	(貸) 買	掛	金	120,000
(借) 仕	掛	品	90,000	(貸) 材	料	115,000
	製	造	間	接	費	25,000

② 賃金の支払い・消費

直接労務費は仕掛品に振替えます。

(借) 賃	金	100,000	(貸) 現	金	預	金	100,000
(借) 仕	掛	品	100,000	(貸) 賃	金	100,000	

③ 製造間接費の予定配賦および間接経費の支払い

製造間接費の予定配賦額を仕掛品へ振替えます。また、間接経費の小切手支払額は製造間接費となります。

(借) 仕	掛	品	110,000	(貸) 製	造	間	接	費	110,000
(借) 経	費	41,000	(貸) 現	金	預	金	41,000		
(借) 製	造	間	接	費	41,000	(貸) 経	費	41,000	

④ 完成品原価および売上原価の処理

当月完成品原価は、仕掛品から製品に振替えます。また、当月売上原価は、製品から売上原価に振替えます。

(借) 製	品	280,000	(貸) 仕	掛	品	280,000	
(借) 売	上	原	価	260,000	(貸) 製	品	260,000

⑤ 売上高の処理

(借) 売	掛	金	350,000	(貸) 売	上	350,000
-------	---	---	---------	-------	---	---------

第 157 回 解 説 — 商業簿記 —

2. 買掛金と売掛金

① 買掛金

(借)	買	掛	金	185,000	(貸)	現	金	預	金	185,000
-----	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---	---------

買掛金 (B/S) : $¥1,115,000 + ¥120,000 - ¥185,000 = ¥1,050,000$

② 売掛金

(借)	現	金	預	金	300,000	(貸)	売	掛	金	300,000
-----	---	---	---	---	---------	-----	---	---	---	---------

3. 販売費

(借)	販	売	費	51,500	(貸)	現	金	預	金	51,500
-----	---	---	---	--------	-----	---	---	---	---	--------

4. 材料と製品の評価

① 材料

帳簿棚卸高と実地棚卸高との差額を棚卸減耗損とします。また、材料の棚卸減耗損は間接経費に該当するので、製造間接費に振替えます。

(借)	棚	卸	減	耗	損	500	(貸)	材	料	500			
(借)	製	造	間	接	費	500	(貸)	棚	卸	減	耗	損	500

材 料

3 月月初有高 ¥49,500	3 月消費高 ¥115,000		
3 月当月仕入高 ¥120,000	期末帳簿棚卸高 貸借差額より ¥54,500		棚卸減耗損 ¥500
			期末実地棚卸高 ¥54,000

3 月月初有高 : 2 月末現在の残高試算表より、¥49,500

棚卸減耗損 : $¥54,500 - ¥54,000 = ¥500$

② 製品

帳簿棚卸高と実地棚卸高との差額を棚卸減耗損とします。また、製品の棚卸減耗損は売上原価に賦課するため、売上原価に振替えます。

(借)	棚	卸	減	耗	損	600	(貸)	製	品	600		
(借)	売	上	原	価	600	(貸)	棚	卸	減	耗	損	600

製 品	
3 月月初有高 ¥30,000	3 月売上原価 ¥260,000
3 月当月完成品原価 ¥280,000	期末帳簿棚卸高 貸借差額より ¥50,000
	棚卸減耗損 ¥600
	期末実地棚卸高 ¥49,400

3 月月初有高：2 月末現在の残高試算表より、¥30,000

棚卸減耗損：¥50,000－¥49,400＝¥600

5. 減価償却

減価償却費のうち、製造活動に関するものは、間接経費に該当するので、製造間接費に振替えます。その他の減価償却費は、損益計算書の販売費及び一般管理費に計上します。

(借) 減 価 償 却 費	17,000	(貸) 建 物 減 価 償 却 累 計 額	5,000
		機 械 装 置 減 価 償 却 累 計 額	12,000
(借) 製 造 間 接 費	15,000	(貸) 減 価 償 却 費	15,000

製造原価分：¥3,000＋¥12,000＝¥15,000

販売費及び一般管理費分：¥2,000

6. 貸倒引当金の設定

(借) 貸 倒 引 当 金 繰 入	6,700	(貸) 貸 倒 引 当 金	6,700
-------------------	-------	---------------	-------

売掛金：¥1,380,000＋¥350,000－¥300,000＝¥1,430,000

要設定額：¥1,430,000×1%＝¥14,300

繰入額：¥14,300－¥7,600＝¥6,700

7. 退職給付引当金

退職給付引当金の3月分および追加計上分を仕訳します。また、退職給付費用のうち、製造活動に携わる従業員に関わる金額は間接労務費に該当するので、製造間接費に振替えます。それ以外の従業員に関わる金額は、損益計算書の販売費及び一般管理費に計上します。

(借) 退 職 給 付 費 用	45,600	(貸) 退 職 給 付 引 当 金	45,600
(借) 製 造 間 接 費	30,600	(貸) 退 職 給 付 費 用	30,600

3 月分および追加計上分：¥30,000＋¥15,000＋¥600＝¥45,600

製造原価分：¥30,000＋¥600＝¥30,600

販売費及び一般管理費分：¥15,000

8. 製品保証引当金の設定

保証期間が終了した分は取崩し、新たに設定する分だけ増額させます。また、戻入額と繰入額を相殺して損益計算書に計上しますが、問題文の指示により、製品保証引当金戻入は営業外収益に計上します。

(借) 製 品 保 証 引 当 金	29,700	(貸) 製 品 保 証 引 当 金 戻 入	29,700
(借) 製 品 保 証 引 当 金 繰 入	28,000	(貸) 製 品 保 証 引 当 金	28,000

損益計算書に記載する製品保証引当金戻入：¥29,700－¥28,000＝¥1,700

9. 有価証券

① A社社債（満期保有目的の債券）

(借) 投資有価証券	9,800	(貸) 有価証券	9,800
(借) 現金預金	60	(貸) 有価証券利息	60
(借) 投資有価証券	40	(貸) 有価証券利息	40

利息受取額： $¥10,000 \times 1.2\% \div 2 = ¥60$

償却原価法： $(¥10,000 - ¥9,800) \div 5 = ¥40$

投資有価証券 (B/S)： $¥9,800 + ¥40 = ¥9,840$

② B社株式（子会社株式）

(借) 関係会社株式	11,800	(貸) 有価証券	11,800
------------	--------	----------	--------

10. 原価差異の把握および仕掛品の評価

① 原価差異の把握

製造間接費勘定において、予定配賦額と実際発生額との差額で原価差異（製造間接費配賦差異）を把握します。原価差異は、売上原価に賦課します。

(借) 製造間接費配賦差異	2,100	(貸) 製造間接費	2,100
売上原価	2,100	製造間接費配賦差異	2,100

実際発生額：間接材料費＋間接労務費＋間接経費

$= ¥25,000 + ¥30,600 + ¥41,000 + ¥500 + ¥15,000 = ¥112,100$

原価差異：予定配賦額－実際発生額

$= ¥110,000 - ¥112,100 = \triangle ¥2,100$ （不利差異）

製造間接費

間接材料費	¥25,000	予定配賦額	
間接労務費	¥30,600		¥110,000
間接経費			
小切手支払分	¥41,000		
棚卸減耗損	¥500	原価差異	
減価償却費	¥15,000		¥2,100

仕掛品 (B/S)： $¥60,000 + (¥90,000 + ¥100,000 + ¥110,000) - ¥280,000 = ¥80,000$

<参考> 3月の製造原価報告書をまとめると以下のようになります。

<u>製造原価報告書</u>		(単位：円)
I 直接材料費		90,000
II 直接労務費		100,000
III 製造間接費		
間接材料費	25,000	
間接労務費	30,600	
材料棚卸減耗損	500	
減価償却費	15,000	
その他(小切手払い分)	41,000	
小計	112,100	
製造間接費配賦差異	2,100	
製造間接費配賦額		110,000
当月総製造費用		300,000
月初仕掛品棚卸高		60,000
合計		360,000
月末仕掛品棚卸高		80,000
当月製品製造原価		280,000

第 4 問

費用別の仕訳問題です。製造間接費の差異分析も正答して欲しいです。

(1) 材料の購入

購入対価：20,000 個×¥100=¥2,000,000

材料副費：¥2,000,000×8%=¥160,000

(2) 材料副費差異

材料副費差異：¥160,000－¥183,000=△¥23,000（不利差異）

(3) 労務費の消費額

直接労務費（仕掛品）：2,800 時間×¥1,500=¥4,200,000

間接労務費（製造間接費）

①直接工間接賃金：220 時間×¥1,500=¥330,000

②間接工賃金：¥600,000＋¥160,000－¥180,000=¥580,000

③合計：①＋②=¥910,000

(4) 製造間接費予定配賦

予定配賦率： $\frac{¥13,920,000 + ¥17,400,000}{34,800時間} = ¥900/時間$

予定配賦額：2,800 時間×¥900/時間=¥2,520,000

(5) 製造間接費配賦差異

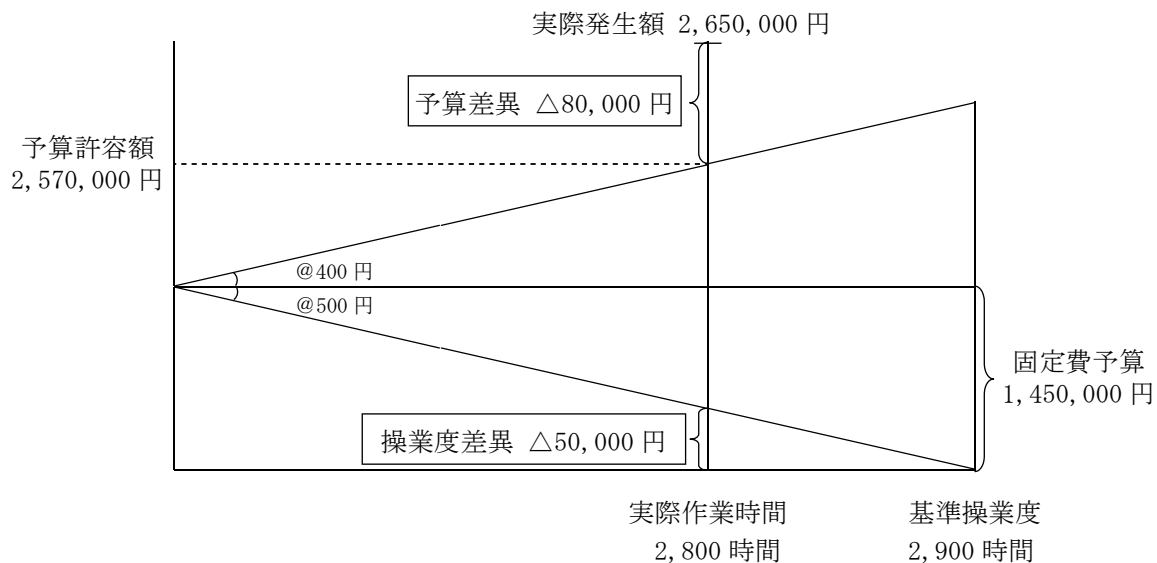
製造間接費配賦差異：¥2,520,000－¥2,650,000=¥△130,000（借方差異）

予算差異：¥400/時間×2,800 時間＋¥17,400,000÷12 か月－¥2,650,000=¥△80,000（借方差異）

※変動費率： $\frac{¥13,920,000}{34,800時間} = ¥400/時間$

操業度差異：(2,800 時間－34,800 時間÷12 か月) × ¥500/時間※=¥△50,000（借方差異）

※固定費率： $\frac{¥17,400,000}{34,800時間} = ¥500/時間$



第 5 問

標準原価計算に関する問題です。シングル・プランでは、すべて標準原価で仕掛品勘定に記入します。従って、各費用別の勘定から各原価差異を把握することになります。

1. 生産データの整理

当月投入	完成品 2,250 個
2,350 個 (2,290 個)	月末仕掛品 100 個 (40 個)

材料：2,350 個 × ¥4,800 = ¥11,280,000
加工費：2,290 個 × ¥3,900 = ¥8,931,000

2. 月末仕掛品原価および完成品原価の記入

月末仕掛品原価（次月繰越）：¥4,800 × 100 個 + ¥3,900 × 40 個 = ¥636,000
完成品原価（製品）：¥8,700 × 2,250 個 = ¥19,575,000

3. 直接材料費差異の分析

		実際発生額 ¥11,817,500（外枠） ※1	
実際 ※2 標準 ¥4,800	価格差異 ¥△249,500（借方差異）		
	標準直接材料費 ¥11,280,000	数量差異 ¥△288,000 （借方差異）	
		標準 2,350 kg	実際 2,410 kg

※1 実際発生額：170kg × ¥4,950/kg + (2,410kg - 170kg) × ¥4,900/kg = ¥11,817,500

※2 実際価格：¥11,817,500 ÷ 2,410kg、（割り切れない場合は、分数のまま考えてみると良いです。）

価格差異：(¥4,800 - ¥11,817,500 ÷ 2,410kg) × 2,410 kg = ¥△249,500（借方差異）

数量差異：¥4,800 × (2,350 kg - 2,410 kg) = ¥△288,000（借方差異）

材料月末有高：280kg × ¥4,900/kg = ¥1,372,000